

SHOW-HOUSEシネマフルーツ

★★★★

エレベーション 絶滅ライン (ELEVATION)

2024年／アメリカ映画

配給：アットエンタテインメント／91分

2025（令和7）年7月28日鑑賞

テアトル梅田

Data

2025-69

監督：ジョージ・ノルフィ

製作：ブラッド・フラー

出演：アンソニー・マッキー／モリ

ーナ・バッカリン／マディ

ー・ハッソン／ダニー・ボイ

ド・Jr.

みどころ

映画はアイデア！とりわけ「サバイバル・ホラーもの」では、それが勝負だ。しかし、本作のアイデアは「地上2,500m以下（奴らの領域）に下りたら即死！」というもの。それは“リーパー”と呼ばれる謎のモンスターもそこには侵入してこないから。したがって、地上2,500mが人類の絶滅ライン（エレベーション）というわけだ。なるほど、なるほど・・・。

本作の舞台はロッキー山脈の山岳地帯。主人公は喘息の息子のために標高1,850mの地点にある病院に決死行をせざるを得ない父親だ。本来は美しい山岳風景も見モノだが、本作ではそれを忘れ、91分に要領よくまとめられた、スリル満点のリーパーとの戦いを楽しみたい。

もっとも、最後にはリーパーは動物ではなく、ロボットだったことがわかるから、ビックリ！その製造者は一体ダレ？そしてその目的は？そう考えると、本作はきっとシリーズ化され、第2作も近いうちに・・・。

■□映画はアイデア！設定の斬新さとユニークさに拍手！■□■

王道を行く恋愛映画や家族映画もいいし、歴史モノ大作も戦争モノ大作も、スパイ大作もアクション大作も、映画面白ければそれで良し！しかし、サバイバルホラー映画では、何よりもアイデアが大切だ。

しかし、チラシによれば本作のそれは、「（奴らの領域）地上2,500m以下に、下りたら、即死。」というもの。奴ら=リーパーは2,500mを越えるとなぜか侵入してこないらしい。そのため、生き残った人間は高地に避難し、小さなコミュニティに分かれ、ひつそりと暮らしていた。タイトルも、原題は『ELEVATION』だが、邦題には「絶滅ライン」というサブタイトルを付けているから、本作の狙いがよくわかる。そんな本作では、「生き

残るために「地上 2,500m 以下に下りるな」が要求されるが、人間にそんなことが可能ななの？

映画はアイデア！設定の斬新さとユニークさに拍手！

■口■舞台は？主人公は？メインストーリーは？■口■

そんなアイデアに基づく本作の“状況設定”は、「リーパー」と呼ばれる謎のモンスターが地下穴から多数出現し、人類の 95% を死滅させて 3 年が経った、というもの。そして、本作の舞台は、ロッキー山脈にある、標高 2,500m 以上の山岳地帯の避難所だ。

幼い息子ハンター（ダニー・ボイド・Jr.）と暮らす父親のウィル（アンソニー・マッキー）は、既に妻をリーパーに殺されたらしい。そして、肺の病気を患うハンターには酸素吸入が不可欠だが、その吸入器のフィルターを補充するために標高 1,850m の地点にある病院に行く決意をするとところから、本作の物語が始まる。したがって、本作のメインストーリーは、リーパーに襲われる危険と戦いながらの、ウィルたちの病院への決死行だ。

■口■もう 1 人の主人公の女性科学者にも注目！■口■

本作のもう 1 人の主人公（ヒロイン？）は、リーパーを倒す方法を研究している女性・ニーナ（モリーナ・バッカリン）。ニーナは科学者だから、毎日リーパーの残骸を標的に、如何にすればこれを貫徹する弾丸を開発できるかを研究していたからすごい。もっとも、私にはこんな孤立した私的な研究で、リーパーを退治する弾丸が開発できるとは到底思えないが・・・。

ニーナはウィルの亡き妻と悲劇的な因縁を持つらしい。またウィルは今、妻の親友だった女性ケイティ（マディー・ハッソン）と共に暮らしているが、その事情はほとんど説明されない。わずか 91 分の本作では、ウィルとニーナ、ケイティの 3 人による酸素吸入器のフィルター補充のための病院への決死行というメインストーリーの中で、それらのサブストーリーが要領よく説明されるので、それに注目！

おっと、もう 1 つ。ウィルの目的はその 1 点だが、ウィルの護衛のために同行することを承諾したニーナにはもう 1 つ、病院の近くにある元勤務していた研究所に行き、コバルト等のリーパー退治のための材料を補充するという目的があったらしい。それはそれでいいのだが、そんなことが本当にできるの？

■口■リーパーの特性は？ウィルの作戦は？その成否は？■口■

リーパーは巨大な昆虫のような形態をしており、尻尾の先の小さな赤い光を使って人間の二酸化炭素を感じる能力を持っているらしい。このリーパーは、惑星の頂点捕食者で、人間は彼らの絶好の獲物らしい。そして、銃も弾丸もこの怪物を倒すことができないから、人間はリーパーに立ち向かう策がなく、ただ出くわさないことを祈るしかないのが惨めな実情だった。

そんなリーパーの攻撃を避けて病院への決死行を成功させるためにウィルが立てた作戦は、かつての坑道を利用し、さらにロープウェイを利用するというものだ。しかし、3 年

間も放置されていた坑道やロープウェイは本当に使えるの？また、本当にそれでリーパーの攻撃を防げるの？さあ、本作中盤ではその展開をしっかり楽しみたい。しかし、ケイティはリーパーに坑道の中であっさりやられてしまうから、本作戦の成否は？

■口■病院でフィルターを発見！さらに研究所では？■口■

3年間も放置されていたロープウェイがタイミングよく動いたり、放置されていた車のバッテリーが都合よく修理できたりするのは映画だからOK。また、初めて入った病院内で首尾よくフィルターを発見できるのも、映画だからOKだ。

それに成功したウィルは、ハンターと約束したとおり、直ちに帰還の途に着こうとしたのは当然。ところが、もう一つの目的を持つニーナは、「独りでも研究所に行く」と主張したから、さあウィルはどうするの？そこであっさりニーナの要求を呑み、ニーナと共に自分も新たな危険に身を晒すことを厭わないウィルに拍手！

もちろん、それも映画ならではの設定だが、「通りゃんせ」で歌われているとおり、「行きはよいよい 帰りはこわい」のが世の鉄則だ。ニーナの机に置かれた家族写真を見たウィルはニーナの秘密に触れてビックリだが、ニーナが研究所内にあるはずのコバルト等のリーパー退治用の材料を探し出し、それなりの確認・実験をするためには、一定の時間が必要だ。しかし、リーパーはニーナとウィルにそんな余裕を与えてくれるの？

■口■ニーナに拍手！リーパーの正体は？次作への期待は？■口■

「私は研究所に置いてある自分の車で独りで帰るから、先に帰って」と促されたウィルはその言葉に従ったが、途中で車を転覆させてしまったから、さあ大変！走って2,500m以上の地点にたどり着こうとしたが、そんな彼の背後にはリーパーが迫り、遂には四方をリーパーに囲まれてしまったから絶体絶命だ。

ところが、そんな時に鳴り響いた銃弾で1匹のリーパーが大爆発を起こしたから、アレレ、アレレ。こりゃすごい！科学者・ニーナの面目躍如たる、この大成果に拍手！よくぞここまで孤独に耐えながら頑張ったもの。また、1人での危険な研究所に入り込み、最後の実験へのチャレンジをよくぞ貫徹したものだ。さあ、そこに見るニーナの雄姿（？）とその後のハッピーエンドの展開は、あなた自身の目でしっかりと！

なお、本作ラストの字幕には、リーパーは動物ではなくロボットだったことが明示されるうえ、新たな危機が暗示されるので、それに注目！すると本作はシリーズ化が決定！？もしそうなら、第2作にも期待！

2025（令和7）年8月1日記